

(八) 舊唐書廻紇傳に

龍朔中婆閏死、妹比粟毒主領廻鶻、與同羅・僕固犯邊、高宗命鄭仁泰、討平僕固等、此粟毒敗走、因以鐵勒本部爲天山縣

と記せり、此の回鶻・同羅・僕固等の侵寇の事件は、新唐書本紀に龍朔元年十月癸酉鄭仁泰を鐵勒道行軍大總管に、蕭嗣業を仙罅道行軍大總管に、阿史那忠を長岑道行軍大總管に任じて鐵勒を伐たしめしが、二年三月庚寅鄭仁泰は鐵勒と天山に戦ひ之を破れりと記せる事實に相應するものなり、此の際薛仁貴は鄭仁泰に副として征伐に加里しが、舊唐書卷八十三薛仁貴傳には此の戦を記して

〔薛仁貴〕又領兵擊九姓突厥於天山……時九姓有衆十餘萬、令驍健數十人逆來挑戰、仁貴發三矢殺三人、自餘一時下馬請降、仁貴恐爲後患、並坑殺之、更就磧北安撫餘衆、擒其僞葉護兄弟三人而還、……九姓自此衰弱、不復更爲邊患

といひ、新唐書卷百一十一同傳にもほゞ同様の記事を載せ、然も「領兵擊九姓突厥於天山」の語を缺けり、即ち詔副鄭仁泰爲鐵勒道行軍總管、……時九姓衆十餘萬、令驍騎數十來挑戰、仁貴發三矢輒殺三人、於是虜氣懾皆降、仁貴慮爲後患、悉坑之、轉討磧北餘衆、禽僞葉護兄弟三人以歸、……九姓遂衰

と記せり、こゝに舊唐書が九姓突厥と記せるものは、思ふに九姓鐵勒若しくは單に九姓と記すべきを誤りたるものにして、其の證は同書本紀龍朔三年正月の條に、「左武衛大將軍鄭仁泰帥師討鐵勒餘種、盡平之」とあるによるも明らかなり、されば新唐書が此の語を載せざるは、もとより當を得たるものにして、通鑑が龍朔元年十月の條に、